

鳥取県におけるヒナノシャクジョウの初記録

清末 幸久

〒680-0011 鳥取市東町2-124 鳥取県立博物館

E-mail: kiyosuey@pref.tottori.jp

[受領 Received 15 February 2006 / 受理 Accepted 2 March 2006]

A record of *Burmannia championii* Thwaites (Burmanniaceae), new to the flora of Tottori Prefecture, Japan

Yukihisa KIYOSUE

Tottori Prefectural Museum, Higashi-machi 2-124, Tottori, 680-0011 Japan.

ヒナノシャクジョウ *Burmannia championii* Thwaites (ヒナノシャクジョウ科, ヒナノシャクジョウ属) は、高さ 3 ~ 15cm 程度となる葉緑素を持たない腐生植物である。8 ~ 10月に目立たない花を咲かせる。

本種が属するヒナノシャクジョウ属には約60種が知られ、葉緑体をもつものから、菌類に寄生して生育する完全腐生植物(菌寄生植物)となるもの(例えば *B. tenella*: Imhof 1999) まで腐生の程度にはばらつきがあるが(堀田 2005; Cheek・堀田 2006), 葉緑体を欠く本種は完全腐生植物である可能性が高い。

本種の日本における分布は、本州(関東以西)~屋久島と沖縄島とされているが(佐竹 1982), 鳥取県からは報告がなかった。筆者は2003年10月に鳥取県初記録となる個体を倉吉市関金町で採取し、その後、当該採集地で2005年までの連続3年間の発生を確認したので報告する。標本は鳥取県立博物館収蔵庫に収められている。

種名: ヒナノシャクジョウ

(ヒナノシャクジョウ科)

学名: *Burmannia championii* Thwaites

採集地: 倉吉市関金町大字関金宿字勝負谷

(標本ラベルは旧地名の東伯郡関金町)

採集日: 2003年10月19日

採集者: 清末幸久

同定者: 小林史郎

標本番号: 鳥取県立博物館 [895-0001-001]

生育環境

生息地のある倉吉市関金町は、鳥取県中部に位置す

る山間の温泉町であり、町内には中国山地を源とする小鴨川が流れている。生育地は、同河川の南を流れる2支流である矢送川と滝川に挟まれた花崗岩を母岩とする小丘陵地の大字勝負谷の中腹(標高約170m)にある。ヒナノシャクジョウは、この谷の南東に開けた小さな沢に沿った、やや明るい疎林に生育している。この小丘陵地は以前、薪炭林として利用されていたらしく、根元から株立ちとなったコナラなどが多く生育し、炭焼きがま跡と思われる小さな凹地も見られる。生育地には、優占する順に高木層にコナラ、アカマツ、ヒノキ、スダジイ、中木層にヤブツバキ、スダジイ、ヤブニッケイ、ヒサカキ、低木層にヒサカキ、ヤブツバキ、クロモジ、草本層にシシガシラ、ツルアリドオシ、ヒノキが見られる。これは、放棄された薪炭林へ照葉樹が侵入している状態であると思われた。また、この生息地は、蘚苔類やシダ植物の生育状況から判断して、持続的な浸み出し水のある環境であると考えられた。

生育状況

ヒナノシャクジョウは、沢に沿った小径の切り通し状の湿潤な斜面にカガミゴケ、トサハラゴケモドキなどの蘚苔類とともに生育していた(図1)。蘚苔類の量は多く、カーペット状に広がっていた。土壌は花崗岩が風化したものであり、風化を免れた石英の粒などが肉眼で観察できるほどの粗粒で、腐植は少なかった(図2)。2003年の確認個体数は5個体であった。以後、個体数の確認はしていないが、2004年は田中昭彦氏(環境省稀少植物審議委員鳥取県委員)と筆者の2名

で、2005年は筆者のみによって持続的な生育を確認している。

保護対策

ヒナノシャクジョウは、関東から沖縄まで、24の都府県でレッドデータブック記載種（RDB種）に指定されており、広い範囲で希産することがうかがえる（兵庫県環境局自然環境保護課，1995；島根県，2004など）。生育環境に関わる詳しい記載は少ないが、神奈川県川崎市の場合（吉田 1992）では「高木層にハンノキ，コナラなど，低木層にはアオキが優占しイヌツゲ，ネズミモチ，ヒサカキなどが生えている。空中湿度が高く，腐植が多いじめじめとしたところ」と記されている。また，高知県内では，ヒノキ植林，水田跡のスギ植林で常緑樹の混ざる場所での生育が確認されているらしい（小林史郎博士，私信）。これらの環境と，倉吉市関金町の環境との共通点は，人の手が入り不安定で湿潤という点である。このように，生育地はどれも里山的要素を含んでおり，現在の里山環境を保存することが保護のためには必要であると思われる。

謝辞

ヒナノシャクジョウの同定および高知県内の生育環境について情報をいただいた高知県立牧野植物園の小林史郎博士，本報文の執筆にあたりご指導いただいた

岡山理科大学総合情報学部生物地球システム学科の波田善夫教授，蘚苔類の同定をしていただいた岡山理科大学植物園の西村直樹教授，文献を紹介していただいた基礎生物学研究所の塚谷裕一博士に，それぞれ感謝申し上げる。また，問題点の指摘と貴重なご助言をいただいた匿名の査読者の方々にもお礼申し上げる。

引用文献

- Check, M.・堀田 満 (1996) ヒナノシャクジョウ. 週間朝日百科植物の世界 105: 259.
- 堀田 満 (1995) 寄生と腐生. 週間朝日百科植物の世界 40: 126-128.
- 兵庫県環境局自然環境保護課 (1995) 兵庫県の貴重な自然 (兵庫県レッドデータブック). 兵庫県.
- Imhof, S. (1999) Subterranean structures and mycorrhiza of the achlorophyllous *Burmannia tenella* (Burmanniaceae). *Canadian Journal of Botany* 77(5): 637-643.
- 佐竹義輔 (1982) ヒナノシャクジョウ科 BURMANNIACEAE, pp. 63-64. In: 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編) 日本の野生植物草本 I 単子葉. 平凡社.
- 島根県 (2004) しまねレッドデータブックー島根県の絶滅のおそれがある野生動植物一. 島根県.
- 吉田三夫 (1992) ヒナノシャクジョウ. FLORA KANAGAWA (神奈川県植物調査会ニュース) 33: 355-356.



図 1. ヒナノシャクジョウ (2004年 9月29日)



図 2. ヒナノシャクジョウの生育環境 (2004年 9月29日)